



月刊 動力労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.4.13 No. 3776

小牧闘争を継承し寒風のなか厳戒体制打ち砕く！

反戦闘争の地歩築いた 4.7北海道現地闘争



PKO第2次派兵実力阻止

北海道 現地闘争

四・七カンボジア侵略粉碎、即時撤兵PKO第2次派兵実力阻止、北海道・千歳現地闘争は、二四時間体制とも言える厳戒体制を打ち破り闘い抜かれ、北海道の地に反戦闘争の大いなる地歩を築きあげることになった。

動力千葉は、青年部派遣団を中心に三名が、闘争前日夜半千歳現地に到着。私服・制服を含めた権力の徘徊に再度身を引き締める。当日は早朝四時からの基地正門前・ゲート前での請願行動を展開。頭を閉め、請願書の受け取りにさえ責任者が出てこないなどという不誠実な対応を、門前において徹底的に糾弾しこれを粉碎、基地代表者に対し各団体が請願書を読み上げ回答を迫る。

続いて集会場までのデモに移り、途中、自衛隊員の乗るバスに対し、「出兵を拒否せよ！カンボジア人民に銃を向けるな！」と全体からシュプレヒコール、隊員の表情は皆より一層硬いものとなる。集会では、特別アッピールに立った反戦自衛官・片岡さんより、「8Km先の恵庭基地から千歳基地までヘリで移動してきたことは、自衛隊で言えば軍事行動



決意表明 佐藤 青年部長

に他ならない。UNTAACが部隊編成を変えているように、カンボジアでの軍事作戦展開を許してはならない。世界各地に出兵していく自衛隊―憲法改悪・自衛隊法改悪の現実化は、自衛隊が国軍になることであり、差別・排外主義が国内に溢れるということだ。出兵部隊の解体へ向け、日常的・恒常的な糾弾・説得行動の中で、隊員に自分たちの本当の仲間が誰なのか知らしめよう」との発言は、全参加者三五〇名の胸に強く響いた。

その熱気を引き継ぎ、全体が千歳市内デモに出発。今次闘争前段での、権力・革マルの妨害をはね退け準備してきた北海道の仲間達の奮迅とわれわれの闘いの前に、基地の街千歳に「日の丸」一本掲げることができず、パレードさえすることができなかったのだ。

再び会場に戻り総括集会を開催、反戦共同行動委員会・小西代表より総括提起(要旨別掲)がなされ、次々と各団体から決意表明が続く、動力千葉からは闘争の最先頭を担う佐藤青年部長が登壇し、今春季連続闘争の意義を鮮明に打ち出し、反戦闘争の高揚へ向け闘う決意を表明してきた。

会場を厚別会館に移して行われた交流会を通し、PKO派兵阻止・即時撤兵―制服を着た労働者である全自衛隊員を、闘いの中で獲得していくことを全体化して、一路帰路についた。

四・七北海道現地闘争は、小牧闘争を継承して勝利した。われわれは、職場生産点の闘いと反戦闘争を結合する陣形を築き上げていかなければならない。

六・一二二五国民闘争へ
4月6日総行動提起

- 反戦共同行動委員会・小西代表総括要旨
- ① 小牧以上の厳戒体制の意味しているものは、反対の声が自衛隊員に見えること、聞こえることを恐れているということだ。第1次出兵の時「出征風景」を掲げたが、自衛隊の街千歳・恵庭においてパレードをして出征できないのは、現地にきて闘っているからだ。こうした闘いが無い限り出兵阻止を貫徹できない。
 - ② 撤兵へ向けた情勢が煮詰まっている。カンボジア内戦は激化し、長期化の様相を呈するなど長期的侵略化となっている。大衆的運動を継続し、六・一三全国闘争へ本格的反戦闘争を構築しよう。
 - ③ 四月下旬天皇訪沖は、沖縄の反戦・反核闘争を潰すこと、沖縄をPKO基地にすることを策している。反戦共同委は、天皇訪沖阻止闘争を全力で闘っていきたい。
 - ④ モザンビークへのPKO派遣が、五月下旬にも行われようとしている。アジアからアフリカ、全世界へまで出ていく自衛隊阻止の闘いを展開しよう。
 - ⑤ 既成野党も改憲勢力となっている。改憲阻止の闘いを、反戦共同委の最大の闘いの課題としたい。

北海道現地闘争に参加して

今回初めてPKO派兵阻止の現地闘争に参加しました。寒風の中での行動は厳しいものがありました。交流会での北海道現地の方々の苦闘を聞き、目が洗われる思いでした。又、反戦自衛官の方が心の底から言われた「隊員も労働者であり、闘いで獲得することを真剣に考えてもらいたい。必ず隊員は合流する」という言葉には胸が詰まりました。(青年部派遣団A君)